

## 令和7年 第10回小松市教育委員会定例会会議録

1 日 時 令和7年10月20日（月）

開会 13時30分

閉会 14時20分

2 場 所 小松市役所6階 教育長室

3 出席委員

教育長 山本 民夫

教育長職務代理者 中惣 恭子

教育委員 村井 啓介

教育委員 浅蔵 一華

教育委員 表 幹也

4 事務局出席者

事務局長 長谷川 巖

教育庶務課長 中川 久美子

学校教育課参事 余野木 康夫

教育研究センター所長 中田 一宏

生涯学習課長 中屋 清志

図書館長及び南部図書館長 田中 明子

ひととものづくり科学館副館長 多井 伸明

市立高校事務長 村田 篤哉

5 書記

教育庶務課参事 湊 幸子

6 傍聴人数 0人

7 付議案件

（1）議案

議案第25号 小松市社会教育賞表彰基準要綱の一部改正について（生涯学習課）

（2）報告事項

1 令和7年度小松市教育功労賞について（教育庶務課）

2 人事行政の運営等の状況の報告について（教育庶務課）

(3) その他報告事項

- 1 小中学校配置最適化に関するアンケート結果について（学校最適化検討チーム）
- 2 寄附受納について（学校教育課）
- 3 中学生ビブリオバトル石川県大会 in 小松 2025 の開催について（図書館）
- 4 体験入学アンケートについて（市立高等学校）
- 5 台湾修学旅行について（市立高等学校）

8 議 事 以下のとおり

山本教育長	<p>只今から、令和7年第10回小松市教育委員会会議を開会いたします。</p> <p>本日の議事は、議案が1件、報告事項が2件、その他報告事項が6件です。</p> <p>本日の会議録の署名委員は小松市教育委員会会議規則18条第2項によりまして中惣委員を指名いたします。</p> <p>議事に入りますが、報告事項のうち、令和7年度小松市教育功労賞については非公開とすることをお諮りしたいと思いますが委員の皆さんいかがでしょうか。</p>
各委員	<p>&lt;異議なし&gt;</p>
山本教育長	<p>それでは、出席委員全員の賛成をいただきましたので、本日の議事のうち、報告事項 令和7年度小松市教育功労賞については非公開といたします。</p> <p>本日は、傍聴を希望する方はいらっしゃいますか。</p>
書記	<p>おりません。</p>
山本教育長	<p>いないということですので、このまま議事に入ります。先に非公開としました、報告事項 令和7年度小松市教育功労賞について教育庶務課お願いします。</p> <p>&lt;非公開&gt;</p>
山本教育長	<p>それでは、議案の審議に入ります。議案第25号 小松市社会教育賞表彰基準要綱の一部改正について生涯学習課お願いします。</p>
中屋生涯学習課長	<p>生涯学習課からは議案第25号「小松市社会教育賞表彰基準要綱の一部改正について」です。社会教育賞は、本市の社会教育の振興に寄与した個人又は団体を表彰するものになります。今回の主な改正は、「表彰基準」と「決定の手続き」に関する事項になります。はじめに第2条「表彰基準」についてです。これまで社会教育活動に係る個人・団体は第1号から第4号で、青少年の健全育成に係る個人・団体は第5号で規定していましたが、今回の改正では第5号を削除</p>

し、青少年の健全育成に係る活動を第1号から第4号に統合する形に改めました。さらに、これまで個人と団体で異なっていた活動期間については、第1号及び第3号において「特に顕著な功績があった場合」は「5年」に統一しています。次の第4条「決定の手続き」についてです。これまでは第4条で「被表彰者」の推薦、第5条で「被表彰者の決定」を定めていましたが、今回の改正において第4条「決定の手続き」として整理をしました。加えて、被表彰者の決定を「市長」から「教育委員会」に改めています。なお、第2条の改正については、令和8年4月1日からの施行、それ以外の規定については令和7年11月1日施行し、令和7年4月1日から適用する予定です。生涯学習課からは以上になります。

山本教育長

それでは議案第25号について質問等ありませんでしょうか。

<質疑なし>

山本教育長

それでは議案第25号は承認でよろしいでしょうか。

各委員

《 承 認 》

山本教育長

それでは続きまして、報告事項に入りたいと思います。教育庶務課お願いします。

中川教育庶務課長

人事行政の運営等の状況の報告についてです。本件は地方公務員法第58条の2及び小松市人事行政の運営等の状況の公表に関する条例第2条の規定により、任命権者は毎年9月末までに市長に対し前年度における教育委員会の人事行政の運営の状況を報告しなければならないとされております。よって教育委員会に係る職員の給与、職員数の状況等について市長へ報告したものです。詳細につきましては2ページから12ページのほうに記載しております。報告は以上です。

山本教育長

ただいまの報告について質問等ありませんでしょうか。

<質疑なし>

山本教育長

それでは続きまして、その他報告事項に入りたいと思います。学校最適化検討チームお願いします。

長谷川事務局長

8月の下旬から9月にかけて、小中学校の配置最適化に関するアンケートということで、保護者向け、市民向け、教職員向けの3パターン作りまし

て、アンケートを実施しております。これは、今年度策定する予定の学校の配置・規模の最適化に関する基本計画の基礎資料としまして皆さんそれぞれの方の意識を把握したいということで実施をしております。回答数につきましては保護者、市民、教職員それぞれ記載の通りでございまして、保護者と教職員は一応対象者すべての方に連絡ツール等を用いて、市民についてはハガキで送ってそこからスマホなどで読み取りをしていただいて、ネットで回答という方法をとっております。市民向けの回答が2割弱ということで3,000出したんですけど600弱しか来てないと若干低い結果となっております。回答の中身の方順番に説明させていただきます。まず、現在のこの学校の教育環境に満足していますかって言うのが、一番上のところになります。左側が保護者向け右側教職員向けということで、とても満足している・大体満足している・あまり満足していない・全く満足していない・わからないという5つのの中から選択する形をとっておりますが保護者向けは大体満足しているが68%で教職員も同じような形で、一番は大体満足しているとなっております。2番目が数はぐっと減るんですけども、あまり満足していない、それからとても満足している、という順番になっております。その中でも、あまり満足してないっていうのは、教職員の方が若干多いといったような結果になっております。次にとても満足している・大体満足しているということで、どの辺りで満足していますかというところをお聞きしたのが、①ー1ということになります。保護者は、ちょっと意外だったんですけど、通いやすい場所にあるっていうのがまず1番目ということになっておりまして、その次は友人関係や人間関係が良好である、教職員が熱心で面倒見が良い、という順番になっております。教職員につきましては、教職員の協力体制・連携が良好ということで、自分で自分を褒めるような回答が一番ということになっておりまして、あとは、通勤通学の利便性であるとか、教育内容や支援体制が充実している、となっております。逆に満足していない理由のところは、こちらは最初に満足していない・全く満足していないと回答した人に理由を問うたものですが、教職員の指導や対応に不満があるっていうのがトップはトップなんですけど、それ以外にもそんなに断トツで大きなものではなくて、学習内容や支援体制が不十分だと感じるであるとか、学校規模が適切ではない、校舎や設備が古い、友人関係や人間関係に問題があるっていうふうに、割とばらけております。逆に教職員の方は、教職員の人員・配置に課題があるっていうのがかなり多くて、その次に校舎や設備など施設の老朽化ということで、結構、選択肢は同じぐらい設けてるんですけども、保護者の方はバラバラで数字も率もバラバラなんですけど、教職員の方はある程度、トップ3に集約されるのかなと。人員配置の話と施設が古いと、支援体制が十分じゃないっていうところに集中しているという結果になっております。続けて2ページ目の方に行きたいと思います。学校配置最適化の必要性についてどう考えますかということで、保護者向けは全小学校・全中学校のことは聞か

ず、自分の子供の通っているところについてのみ聞いております。市民、教職員につきましては全体として聞いております。そうすると市民の方はやっぱり必要で教職員の方も必要ということ。ほぼほぼ半数か、それを超える。不要っていうところと比べると断トツで、ダブルトリプルスコア以上の回答をいただいております。必要か必要じゃないかっていうと、市民も教職員も、基本的には必要ですという回答をいただいておりますが、注目すべきところは、どちらとも言えない・わからないということで、これを足すと必要というところに、特に市民の方は迫ってきます。教職員は、一般的には必要があるって言うんですけど、市民の方はそもそもよくわからないっていう方も相当数いらっしゃるということになります。中学校になると、もっと、そこが顕著になってきて、半分ぐらいがわからないという、どちらとも言えない・わからないってことを答えておりまして、必要と答える方も、小学校と比べると率が下がってくる。小学校については、割と小規模な、中山間地域であるとか過疎地域と言われる地域を中心に、100人程度の学校もたくさんあります。小規模の学校もたくさんある。中学校は、みどり学園とか中海とか国府とかでは比較的小規模の学校もあるんですけど、それ以外の学校も結構あるのでそのあたりが影響してるのかなというふうに考えております。では続きまして、子供が通う・地域の・勤務先のということで、実際に自分とこの学校はどうですかっていうことになると、保護者については、今度はどちらとも言えないがトップに出てきます。と言っても、ほぼほぼ4分の1ずつっていう評価でいいのかなというふうに小学校の保護者については考えられます。先ほどの市民向けのところの全体として考えたときっていうのは、小学校は半分ぐらいが必要だって言うけれども自分のところなんだからって言われると、そこが半分ぐらいになってくる。逆に、答えがちょっとはっきりわからないっていう方が、半分を超えてくるという傾向があります。これは中学校の保護者についても同様で、必要という方は減ってきて、なおかつ、どちらとも言えないがやっぱり増えているということになります。市民の方について言うと、不要がトップに上がってきます。どちらとも言えないじゃなくって、しなくていいだろうということになるんですがそこは、小学校中学校の現役の保護者の方は、学校に実際足を運んで、学校の現状を見る事があると、やっぱり子供減ったなっていうのは実感としてわく。そうだけでも普通に車で前通るぐらいで全く関係ないっていうことになると、学校の中がわからないということが、特に影響するのかなということが考えられます。また、よく言われることが、学校なくなると地域が寂れるということをする方がいらっしゃるのと、とりあえず学校をなくすということに対しては、ネガティブな判断をする市民の方が多いのかなと。この市民っていうのは、保護者は保護者で答えているので、市民は保護者じゃない方を基本的にピックアップしております。教職員についても、自分のところはっていうことで答えを求めますと必要はとりあえずトップではあるんですけど先ほど

の一般的にというところと比較しますと、随分数字が落ちてくるということで、保護者、市民、教員、共通していえるのは全体としてしないといけないということは何となくわかるけども自分のところの話になると、ちょっと待ってくれて言ったような感覚というか、価値判断は今のところ、それぞれ皆さんにあるのかなというふうに今のところは考えております。次のページいきます。次に一般的に小中学校における1学年のクラス数としてどれぐらいが望ましいと考えますかということで、これについては、1. 1学年2から3クラス、中学校であれば、4から6クラスというのは、どの層もほぼほぼ断トツで多い結果となっております。8割近くということ。ちょっとグラフ随分違って見えるんですが実はほぼ率としては同じような形になっており、1クラス当たりの人数についてどれぐらいが望ましいですかということと言うと、現状よりも若干少な目35人とか、いうことでやっとなので、それからいうと若干少ない数字を上げる方が、保護者についても市民についても、一番多いという形になります教職員の方は、もうワンランク下がって21から25人がちょうどいいですっていうことを仰ってまして、教員の方の学校運営の肌感覚的なことと言うとこれぐらいの方が実はやりやすいんだっていうことをお聞きしましたので、そのあたりの、実際にやってる方の感覚でいうとこれぐらいのちょうどいいっていうことなのかもしれない。続いて、学校をより良くするために必要と思われる施設や設備があればお答えくださいということで、どこも一番多いのが体育館の空調設備ということで、特に、一番、保護者の中ではやっぱりダントツトップということになっている。それ以外のところは、結構バラバラといえばバラバラなんですけども、防犯設備とか、駐車スペースとか、最近皆さん車で子供を送ったりするということと、近年の盗撮の事案等を踏まえたものが、答えとしては多いのかなというふうに考えられます。教職員のところだけちょっとICT機器の整備というところで今GIGAの話もあって、令和型の教育ということもあると市の方でICT機器の整備をもっと進めて欲しいというのが現場からいうとあるのかなというふうに思いました。通学区域、最後いきたいと思えます。通学区域については、現在の通学区域っていうのが一番多いのかなと思っていたのですが、やっぱり隣接する区域を可として欲しいというのは、保護者では一番多いという結果になりました。先ほど満足のところで出てきていた満足のところの上位にあるのが実は近いっていうのが上位でありまして、結局、隣接する区域で学校が近い人らは、隣接している本来の校区以外の学校でも近いところに通いたっていう要望が潜在的にあって、隣接する通学区域も認めて欲しいということ、その通学区域の考え方について入れているのかなというふうに思いました。市民とかっていうことになるとこの差が、大分近づくように見えるんです。市民もほぼ同じような率になっていると思います。教員になるとほぼほぼ一緒ということになります。ブロック選択制、わからないっていうのは一定数ありますけど通学区域、校下っていうものにつ

いては場所によっては本当に、隣の学校が見えるのにつていうところもありますのでそういったものを、今後、通学区域の考え方の中に入れていく必要があるのかなというふうに、今のところ感じております。簡単ですが、説明は以上です。

山本教育長

ただいまの報告について質問等ありませんでしょうか。

今後の最適化ということの中でスタート地点といいますか、こういうアンケートを取ったところ、大体、予想された通りの結果かなとは思いますが。

中惣委員

保護者と市民の方に対してどのような形でアンケートをされたのでしょうか。

長谷川事務局長

保護者は連絡ツールを通じて回答フォームに入れるように、すべてインターネット回答です。

中惣委員

保護者をしていました時、個人面談の待ち時間などの短い時間でアンケート用紙に記入しなくてはいけなかったため、質問の内容によっては意見を全てお伝えすることができませんでした。この度のアンケートでは、ゆっくり考えていただけているようなので、とても良かったと思います。

山本教育長

それでは続きまして、学校教育課お願いします。

余野木学校教育課参事

学校教育課です。よろしくお願いいたします。学校教育課からは、寄付について2件報告がございます。まず1件目なんですけれども、企業版ふるさと納税ということで、クラシス株式会社という福井の会社から、本市の教育環境の充実のためにということで、学校用のオフィス家具一式、教室にあるような机と椅子、可動式というのは、高さを調節できるようなものになるんですけれども、その他、表にある通りの一式を寄付していただきました。カタログ価格でおよそ430万円分ということで、ご寄附をいただいております。こちらにつきましては、感謝状贈呈式を10月23日に開催する予定です。会場稚松小学校におきまして、クラシス株式会社の方も来ていただいて、感謝状を市長の方からお渡しする予定でございます。続きましてもう1件の寄付でございます。小松ロータリークラブさんから寄附を現金でいただきました。市内の小学校の図書購入に充ててもらうためということでご寄附をいただいております。23万円というのが、小学校23校ありますがそこに1万円ずつということで図書の購入に充てていただくためにということで寄付がございました。こちらの方につきましては、昨日、小松ロータリークラブの創立

70 周年の記念式典がうららでございまして、そこでロータリークラブさんの方から市長に目録の贈呈と市長から感謝状贈呈ということで、行っております。こちらにつきましては、寄附金につきましては、小学校の要望確認の上、図書の購入費に充てる予定でございます。学校教育課からは以上です。

山本教育長

1 件目の稚松小学校の机、椅子を私も局長と一緒に実際に納入されたものを見てきました。机は一回り大きい机で高さも調節できるというものと、アクティブな授業ということで、ひょうたん型や台形とかいろいろ組み合わせて、子供たちが交流しながら授業できるような、そういうものを入れていただきました。2 件目の小松ロータリークラブさんも昨日の式典に私も出席いたしまして、会長さんの方から、説明にあったように、小学校の図書ということで、寄付していただきました。  
この 2 点の寄附受納等について何かご質問等ないでしょうか。

<質疑なし>

山本教育長

続きまして、生涯学習課お願いします。

中屋生涯学習課長

生涯学習課です。生涯学習課からは「こまつ市民大学終了後の社会教育・生涯学習体制について」です。7 月の教育委員会会議でもご説明しましたが、子どもから大人までの一貫した生涯学習環境の充実を目指し、世代・立場・組織を超えて地域で活躍する人材育成拠点「学びの場」として開催していました「こまつ市民大学」を今年 8 月までの第 7 期をもって募集を終了しました。市民大学の募集終了後の生涯学習については、市民大学に参加していた各団体がそれぞれの特色を活かし、リスキリング、リカレント教育、生涯学習の視点から市民の「学びの場」を提供しています。例えば、公立小松大学では、大学で行われている学術の研究成果や専門的な知識を分かりやすく伝えるため「市民公開講座」や、ものづくりに必要な知識を一貫して体系的に学ぶ「ものづくり人材スキルアッププログラム」を実施しています。また、社会福祉協議会では「はつらつ講座」、まちづくり財団ではスポーツ・文化教室などを開催しており、多彩な学びの機会を提供しています。さらに、市主催講座としては各団体で取り上げられないテーマや、働く世代が受講しやすい時間帯、また学び直しのきっかけとなる講座を開設する予定です。今年度の案としては、コミュニケーションスキル向上、オープンデータやビックデータなどのデータ活用方法、県内で様々な分野で活躍する方々の経験等を伝えるキャリア教室などを検討しています。現在、来年 1 月の開講に向けて講師や会場の調整を進めています。生涯学習課からは以上になります。

山本教育長

ただいまの報告について質問等ありませんでしょうか。



<質疑なし>

山本教育長

続きまして、図書館お願いします。

田中図書館長

図書館から中学生ビブリオバトル石川県大会についてご報告いたします。例年、中学生を対象として行っております、ビブリオバトル大会ですけれども、令和3年度から県大会として開催しており、今年度県大会として5回目となります。この大会の優勝者は全国大会の出場権を得ることとなっております。今年度は11月16日日曜日、13時からサイエンスヒルズこまつ3Dスタジオにて開催予定であり、現在、発表者と観戦者を募集しているところでございます。このビブリオバトル大会は、中学生が自分の思いを主張し、また、他の発表者や観戦者の多様な意見に触れることができる、本を介した人との交流の機会となっており、また新しい本と出会える場ともなっております。読書推進の一助として、有意義な大会となるよう努めたいと考えております。以上です。

山本教育長

ただいまの報告について質問等ありませんでしょうか。

<質疑なし>

山本教育長

続きまして、小松市立高等学校から2件お願いします。

村田市立高校事務長

市立高校ですよろしくお願いいたします。まず1点目は体験入学アンケートについてご報告いたします。実施日時は7月23日、内容は芸術コース音楽専攻によるミニコンサート、在校生による学校説明、質疑応答、授業体験、その他希望者による部活動体験です。参加者は443人でした。例年、体育館でミニコンサート、在校生による学校説明、質疑応答を行っていましたが危険な暑さが予想されていたので、今年度は体育館ではなく、そのまま各教室に入ってもらい、ミニコンサート、学校説明は生徒が今回のために作成した動画を視聴する形で行いました。また当日の受付、案内も今回から生徒が主体で行う形式に変更しております。アンケートについてはご覧の通りの結果となっております。3の市立高校の受験をどう考えていますかについての結果については、まだ7月時点でのアンケートでしたのでご覧の通りの結果となっております。昨年以外は、例年第1希望が市立高校を第1希望とするというのが20%台で、受験したい学校の1校として考えているというのが50%前後というふうになっております。今回もその結果となりました。4の自由意見や質問についての主なものはご覧の通りとなります。質問につきましては、アンケート用紙にホームページ上で回答をしますということを書い

てありまして、後日、ホームページですべての質問に対して回答しております。体験入学アンケート結果については以上となります。

続いて芸術コースの秋の体験入学についてご報告いたします。日時は10月26日日曜日、対象者は中学3年生とその保護者です。現在、69人から申し込みがございます。内容は、ご覧の通りということになっております。体験入学アンケートについては以上です。

続いて、台湾の修学旅行についてです。市立高校の修学旅行について、例年北海道としているんですけれども今年度は台湾を訪れましたのでご報告いたします。今本校の特色として、英語学習と国際理解教育というものに力を入れておりまして、高校の授業などにおいても、外国人講師等の英会話授業や留学生との交流も行っておりますけれども、実際に海外を訪れて異文化や歴史に直接触れる体験を通じて、生徒たちの視野を広げることや、現地の青少年との交流を通じて国際的な理解と感性を養うこと、それから、友好交流都市である彰化市との親交を深めることを目的に、今回修学旅行先を台湾としました。日程は10月14日火曜日から17日金曜日の3泊4日、参加者は2年生147人と引率の教員8人です。内容についてはご覧の通りでして、メインの活動についてご報告します。2日目、午後から国立彰化女子高級中学の生徒と交流を行いました。同中学は創設100年を超える台湾中部一古い歴史と伝統を持つ国立の女子高校です。生徒が1500人を超える高校となっております。心のこもった出迎えを受けた後、グループに分かれての英語での交流授業を行いまして、その後、歓迎式が行われました。両校長の挨拶と記念品の贈呈、それから現地生徒による学校紹介や、歓迎パフォーマンスが行われまして、次に市立高校の生徒から英語での学校紹介、それから芸術コースの生徒によるピアノ演奏、そして合唱部による校歌の合唱を披露しました。本校生徒も、日頃の英語学習の実践の機会となったことや、現地で受け入れていただいた学校を生徒、先生方のおかげで大変充実した時間を過ごすことができました。3日目ですけれども、中正紀念堂を出発点としてB&S研修を行いました。ご存じかもしれませんが、B&Sというのはブラザーアンドシスターの略で、現地の大学生のお兄さんお姉さんという意味で、現地台湾の大学生と、生徒でグループを作って、中正紀念堂からそれぞれ自主行動するプログラムを行いました。現地の大学生から地元のことを教えてもらったり、おすすめの店を回ったり、実際に台湾の地下鉄に乗ったりなどをしました。台湾での日常や、生活というものを感ずることができまして、こちらの活動も生徒にとって大変充実した時間となりました。先週17日金曜日全員無事に小松市へ到着いたしました。当初の目的どおり、大変有意義な修学旅行となったことはもとより、市立高校の今後の大きな特色魅力の1つとして、来年度も、台湾の修学旅行、それから彰化市との交流を継続していきたいというふうに考えております。小松市立高校からは以上です。

山本教育長

ただいまの報告について質問等ありませんでしょうか。

<質疑なし>

山本教育長

芸術コースの体験も26日ですかね。先日どんどん祭りの際に、サイエンスヒルズこまつが今年は駅の東側にも人流をとという思いでヒルズの方でいろいろ企画していただいて、そこで市立高校の似顔絵を描くコーナーがかなり盛況だったと聞いております。いろんな活動をしていることをどんどんPRしていきたいなと思っております。それと台湾の修学旅行も子供たちはいろいろとを感じるものも多かったのではないかなと思っております。今後修学旅行以外の交流活動等もできればなと思っております。

山本教育長

それでは委員の皆様方からご意見、提言等ありましたら、お願いします。

村井委員

計画訪問に関して、たまたまなのかもしれないんですが、中学校2校、ちょっと極端に違ったなと思って、それぞれの校長先生とお話させていただいたんですけど、ある学校は端末中心で机の上にはもうほとんど筆記用具がなくて、その時も校長先生にお聞きしたら、今どきはこんな感じですよっていう感じで。それはそれで違和感抱かなかったんですけど、先日、国府中学校へ行ったときには、もうめっちゃめっちゃ書いてるんです。プリントだノートだって、我々の時代みたいな感じで。なるほどな、懐かしいなと思って、それも校長先生にお聞きしたら、私もまさにそうなんですけど、漢字を忘れたり、書くことに最近慣れてなくてつらつら書けなくなったりしていると。そのペーを鍛えるのは中学校時代、小学校時代しかないだろうっていうのがその校長先生の考えで、私それ腑に落ちたというか、何が言いたいかという、別にその否定するわけじゃ全くないですが、今の時代これ絶対必要だと思うんですけども、そのバランスだったり、デジタルツールじゃないとできないことだったりをもうちょっと見極めて、そこはそこで使いまくると。けども、昔ながらのやり方が年齢的にもベストだと思うことは、要は変えるべきところと変えないところの見極めを、もうちょっと慎重にやってもいいのかなって。たまたまその授業がそうなのかもしれないんですけど、国府中学校は本当にどの授業を見てもプリントをまわしたり、ノートで書いたり、書いたことを発表するっていうそのスタイルは他の学校も一緒なんですけど、書かせる量が全然違ったなと感じました。もうひとつ、国府中学校で一次懇談の時に聞いただけなのではっきり質問できなかったんですが、まどろみタイムっていう、お昼寝するんですか、あれもちょっとびっくりして、今スマホとかで睡眠不足になりがちだとか、結構その辺も学校として考えられて取り組まれてるのかなという気がして、その辺をもうちょっと小松市としてクローズアップしていてもいいのかなあと。寝不足になるといろいろパフォー

マンス落ちるって言いますから、それを意識的にミックスしてやられてるのかどうかはちょっと聞けなかったんですけど、ちょっと印象に残ったので。

山本教育長

ありがとうございます。1点目の方は、教育委員会としても今委員が言われたようにバランスよく、どちらかに一方的にというんじゃなくて、両方大切なのでバランスよくということで、年がら年中そっちだけやってることはないとは信じているんですけども、どれだけ何時間やりなさいとか、細かい指定はしてないんですけども、やはりどちらも大事な要素ですので、そういうベストバランスっていう言葉でバランスを取ってやってくださいっていうことはお伝えしております。2点目の件は、脳を休めるっていうか、短い時間の睡眠はそのあとの脳の活性化っていいですか、それはよく言われていますので、いろいろ検証し、市全体でやるのかどうかはまた別としていろいろ情報を収集していきたいと思います。

中惣委員

先日、県の教育委員会の代表者会に出席させていただきました。そこで、計画訪問ではない時にも学校訪問をしているというご意見が多くありました。先生方のご負担になるかもしれませんが、小松市でも是非実施させていただければと思います。

山本教育長

私昨年から実践しております。行ったけど行事でいなかったとか、運動会の練習をされていて授業が見れなかったとかそういうこととかもいっぱいあるんですけど、基本的に名乗って確認取って授業を見る分には、教育委員の方は全然問題ないかと思いますし、またこちらの方で、そういうこともあるよっていうアナウンスはしておこうと思います。教育委員さんはもう顔は覚えられていると思うんですけども、最近不審者対応とか何かいろんなことがありますので、事前にそういう場合もあるということをアナウンスしておきます。

中惣委員

計画訪問では、子どもたちも先生方も緊張されていると思いますので、普段の様子も拝見したいと思います。よろしくお願い致します。

山本教育長

今おっしゃられたようにそういう面もありますし、また一方では、計画訪問に我々が見に行くことを前提に、今、うちの学校ではこういう教育をしているんだっていうところを見てもらおうっていう、そういう場でもあるということで行っておりますので、またいろんな角度から見て、いろいろご意見いただければ、参考にしていきたいなと思います。ありがとうございます。

表委員

気になったのが、ある学校ではこういう取り組みをしている、ある学校ではこういう取り組みをしている、というような情報交換の場っていうのはある

んでしょうか。同じ市内で同じ学校同士での、教員同士ででも、そういう情報交換の場ってあるんでしょうか。

山本教育長                   いろいろとあることはあります。

表委員                       情報交換できて、いい取り組みだな、うちも取り組みたいなとか、そういうふうになるとお互いいい方向になるかなと思うんですが。

山本教育長                   最近は研修で集まったときにそういうことも伝えていると思うんですが、中田所長、何かありますか。

中田教育研究センター所長  
毎月校長が集まる校長協議会もありますので、色々な情報共有はできていると思います。

浅蔵委員                   市立高校の修学旅行について、行先を海外にしたことで欠席となった生徒はいたのでしょうか。

村田市立高校事務長       行先が海外となったことが理由かは分かりませんが、今回6人が欠席となっており、期間中は図書室で自習となりました。

山本教育長                   ありがとうございました。これで、本日の教育委員会定例会を閉会いたします。